

## 塘研究室現地調査報告

8月14日、長瀬川・酸川の底生動物相調査を横山君、小沼君と塘の三人で実施しました。調査地点は上流側から長瀬川家後付近、三右衛門付近、長瀬川橋上、長瀬川橋下の4ヶ所です。すべて6月に調査を実施した場所です。

水量は前回より減っていました。今回も酸性河川となっている三右衛門付近、長瀬川橋上、長瀬川橋下ではウチダザリガニは見つかりませんでした。中性水域である家後付近では大型個体を含めてウチダザリガニが何匹も発見されました。pHが3台である長瀬川橋下で組んだ河川水をバケツに入れ、その中に家後で採集したウチダザリガニを30分ほど入れておきましたが、特に嫌がったり弱ったりする様子はありませんでした。今回は時間の関係で、30分以上入れておくことはできませんでしたが、夏の間にもう少し長時間入れておいたらどうなるのかを試そうと考えています。

三右衛門付近の左岸付近はpHがやや高いため（中性に近い流入がある？）、オニヤンマ、ムナグロナガレトビケラ、コガムシの幼虫など、酸性度の高い水域からは未確認の底生動物が見られます。今回はバットの中に入れた瀕死のムナグロナガレトビケラ（という餌資源）をめぐって、コガムシの幼虫とアミメトビケラ科の幼虫が奪い合いをする姿が見られました。

酸性水域では全体に底生動物の個体数が少なかったように感じました。これは羽化のピークが過ぎたコオノオナシカワゲラは幼虫やレゼイナガレトビケラが少なかったからかもしれません。



pH3 台の酸性水に入れたウチダザリガニ  
（特に嫌がる気配はなかった）



餌の取り合いをするコガムシ幼虫（下）と  
アミメトビケラ科の幼虫（上）



長瀬川橋上で採集されたアミメトビケラ科幼虫  
巣の下方に見えるのは巣から出てしまった個体



長瀬川橋下で採集されたシマゲンゴロウ幼虫？  
シマゲンゴロウであれば長瀬川からは初記録